

【全体概要】

本県の煎茶産地は、「やぶきた」を主体に早生品種と晩生品種を組み合わせた作期分散と温暖な気候である沿海地域を中心とした早進化に取り組んでいるが、国内リーフ茶の需要減少による荒茶価格の低迷が続いている。そこで、被せ茶特性に優れる「きらり31」と極早生で旨みの強い「はると34」を導入し、更なる早進化と産地の所得向上を図る。

新品種・新技術等の概要

○茶新品种:「きらり31」

宮崎県総合農業試験場茶業支場で育成し、2014年に品種登録。冬期の低温に対する耐寒性は「強」で輪斑病への耐病性もやや強。「やぶきた」よりも摘採期は3日早く、被せ栽培により外観(色沢)と内質(遊離アミノ酸含有率)が大幅に向上。



○茶新品种:「はると34」

宮崎県総合農業試験場茶業支場で育成し、2016年に品種登録。輪斑病への耐病性はやや強く、「やぶきた」よりも摘採期は5日早い。被せ栽培により、外観(色沢)と内質(香気、滋味)が格段に向上。



主な取組内容

【普及展示ほ設置検討会】

早期成園化のための設置内容等の協議(2回/年)

【普及展示ほ現地調査】

展示ほ7ヶ所について、品種毎の生育特性等を把握するための実測等実施(2回/年)

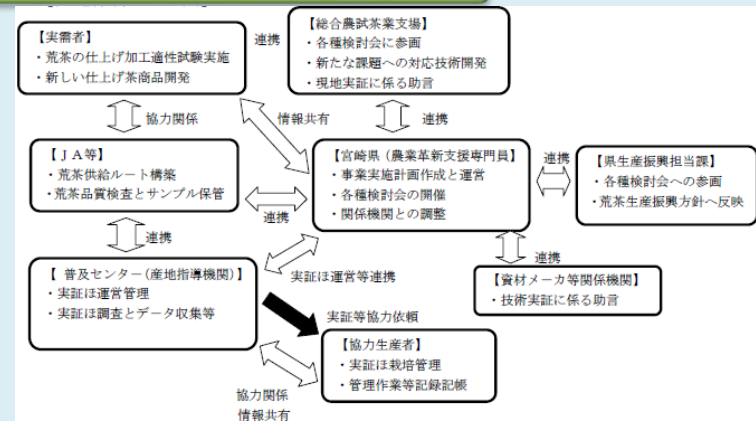
【実需者アンケート】

県外茶流通業者に対する試飲と品質アンケートの実施(1回)

【新品种PR資料作成】

「きらり31」導入ガイド(リーフレット)の作成と県内煎茶農家への配布

コンソーシアム候補の体制図



課題と今後の対応

○きらり31

「普及展示ほ」における幼木園の生育特性把握や早期成園化に向けた管理作業のポイントを導入ガイドとして整理。今後は、苗木供給体制の充実を図り、新・改植を促進。 ※「きらり31」植え付け面積

H28年度 1.5ha ⇒ 令和元年度 7ha

○はると34

「普及展示ほ」における幼木園の生育特性把握と早期成園化に向けた管理作業のポイントを把握。今後は、導入ガイドとして整理を行い、苗木供給体制の充実を図り、新・改植を促進する。 ※「はると34」植え付け面積

H28年度 0.5ha ⇒ 令和元年度 2.8ha

○実需者による荒茶評価と荒茶品質条件等の検討

2品種荒茶の県外実需者による評価を収集し、実需者のニーズに適う荒茶の品質条件を整理。